

つながる医療



大雄会第一病院 副院長

みの しま けん いち
蓑島 謙一 医師

1990年 岐阜大学卒業

●所属学会・資格/日本泌尿器科学会専門医・指導医、
日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本透析医
学会、医学博士

●主な専門領域/泌尿器科全般 透析医療全般

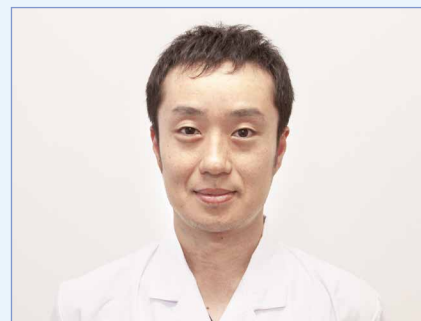
泌尿器科

腹腔鏡視下手術—
手術体制が整い、症例が増加。
悪性腫瘍の治療にも
積極的に取り組んでいます。

大雄会第一病院の泌尿器科では、副腎・腎・尿管などにおける悪性腫瘍などに
対し、患者さまへの負担が少ない治療として腹腔鏡視下での手術を実施し、症例も
増加しています。

がん治療はもちろん泌尿器科領域全般に広く対応する診療への取り組みについて、
大雄会第一病院副院長の蓑島謙一医師に伺いました。

医師紹介



泌尿器科医長
高木 公暁 医師

(2006年岐阜大学卒業)
日本泌尿器科学会専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
Robotic Observationship 研修終了(da Vinci)
日本癌治療学会
日本泌尿器内視鏡学会

泌尿器科および

透析センターの実績と

泌尿器疾患への

積極的な手術治療の取り組み

大雄会第一病院の泌尿器科は、堀江名誉院長を含めて5人の医師で診療を行っていますが、透析センターも同時に管理しており、腹膜透析を含めて現在340例ほどの維持透析症例の治療を行っています。また2015年は200例ほどの透析関連手術を行い、充実した症例数となっています。加えて、悪性腫瘍をはじめとした泌尿器科疾患の手術を積極的に行い、**2016年もこの半年間に298例の泌尿器科手術を実施**しています。

泌尿器科腹腔鏡手術

2015年4月に前川医師が、同年の7月には高木医師が当院に着任し、**腹腔鏡手術に取り組み体制が整いました**。これまで医局である岐阜大学泌尿器科で教育を行い、2015年10月より腹腔鏡下の腎摘除から開始しました。これまで開腹による根治手術で対処してきた**悪性腫瘍に対し、最近、副腎・腎(部分切除も含む)・尿管(一部開腹)で、適応可能な症例はすべて腹腔鏡下で手術**を行っています。2015年は3例でしたが、**2016年はこの半年で、部分切除を含**



腹腔鏡手術

泌尿器疾患手術症例件数

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
副腎腫瘍	0	0	3	1	0
腎・腎盂尿管癌	13	26	14	12	30(3)
膀胱癌	50	55	48	64	84
前立腺癌	15	3	9	4	11
その他悪性腫瘍	5	4	3	3	4
悪性腫瘍手術小計	83	88	77	84	129
尿路結石内視鏡手術	25	23	22	9	20
ESWL(体外衝撃波)	175	117	111	83	84
合計	283	228	210	176	233

()は腹腔鏡手術

めた腎を3例、副腎を3例、尿管を3例行っています。腹腔鏡下手術は、侵襲が少ないために術後の回復が早く、早期の退院・社会復帰が可能な術式で、当科で主流の術式となっていくと考えています。

尿路内視鏡手術

もう一つ忘れてはならないのが尿路内視鏡手術で、主として上部尿路結石に対して行われる手術です。上部尿路結石に対しては体外衝撃波によるESWLが第一選択なのかもしれませんが、ただ破碎効果は個々の症例で異なり、複数回の治療を必要とし、それでも排石に至らぬ症例があります。**上部尿路結石に対する内視鏡手術はほとんどが経尿道的内視鏡手術(TUL)です**。開腹手術に対する腹腔鏡下手術と異なり、TULはESWLより侵襲は増えますが、**碎石効果が大きく、ほとんどが1度の手術で終了します**。これまで硬性鏡での経尿道的手術で、腎盂の結石にはなかなか対応ができませんでした。2016年1月より軟性ファイバーとレーザーを導入し、**尿管から腎盂までの結石すべてに対応可能となりました**。レーザーの碎石力も加えて確実性のある治療となってきています。2015年までは1年間に20症例ほどの手術でしたが、腹腔鏡手術と同様に2016年に入って症例数は増加し、この半年で既に23例行っています。

悪性腫瘍の治療

また当科では従来から悪性腫瘍治療への積極的な取り組みを行っています。**2015年は2014年を大きく上回る129例、2016年もこの半年で61例の悪性腫瘍手術を実施しています**。また、手術一辺倒ではなく、**前立腺がんの適応症例に対しては、IMRTの治療も行っています**。当科は**日本がん治療認定医機構認定医を3名**擁しており、進行がんや切除不能泌尿器科がんに対しては、抗がん剤による化学療法、分子標的薬治療、放射線治療も併せた集学的治療も行っています。また、泌尿器科悪性腫瘍終末期の全身管理や、疼痛に対する緩和治療も当科独自に行っています。在宅治療のご希望があれば、地域の在宅ケアチームへご紹介することも可能な限り行わせて頂きます。

地域医療への貢献

当科は基本的にあらゆる泌尿器科疾患の患者さまに対応が可能です。**診療所や病院からのご紹介や、個人で受診の患者さま、救急外来を受診された泌尿器科疾患の患者さますべてを受け入れさせて頂いています**。保存的薬物療法などで安定した患者さまは、診療所の先生方へこちらから紹介させて頂き、引き続き治療を継続して頂いています。泌尿器の領域で疑問を持たれましたら、気軽に当科に相談して頂ければ幸いです。

詳しくは、地域医療連携室までお電話ください。

tel. **0586-26-2366** (直通) fax. **0586-24-9999**

tel.0586-72-1211(代表) ●受付時間:月～金8:30～19:00 土8:30～12:30 ※祝日、年末年始、4月3日除く